【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和4年6月16日(2022.6.16)

【公開番号】特開2021-184102(P2021-184102A)
【公開日】令和3年12月2日(2021.12.2)
【年通号数】公開・登録公報2021-058
【出願番号】特願2021-128548(P2021-128548)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　7/34(2021.01)
Ｇ０３Ｂ 13/36(2021.01)
Ｈ０４Ｎ　5/225(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/232(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　7/34
Ｇ０３Ｂ 13/36
Ｈ０４Ｎ　5/225300
Ｈ０４Ｎ　5/232120

【手続補正書】
【提出日】令和4年6月8日(2022.6.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
複数の領域が設定された撮像面を有し、光学系の異なる瞳領域を通過した光を受光して生成される複数の信号を出力する撮像部と、
複数の前記信号のずれ量を前記領域ごとに算出する算出部と、
複数の前記領域のうちの特定の領域に複数の被写体像が存在すると、前記特定の領域以外の前記領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する制御部と、
を備える撮像装置。
【請求項２】
請求項１に記載の撮像装置において、
前記制御部は、前記特定の領域に複数の被写体像が存在すると、前記特定の領域の周辺の前記領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する撮像装置。
【請求項３】
請求項１または２に記載の撮像装置において、
前記制御部は、前記特定の領域に複数の被写体像が存在すると、前記特定の領域の周辺の前記領域で算出された前記ずれ量のうち、至近に存在する被写体像の前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する撮像装置。
【請求項４】
請求項１から３のいずれか一項に記載の撮像装置において、
前記制御部は、前記特定の領域に複数の被写体像が存在しないと、前記特定の領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する撮像装置。
【請求項５】
請求項１から４のいずれか一項に記載の撮像装置において、
前記制御部は、前記特定の領域に複数の被写体像が存在せず、前記特定の領域で算出され

た前記ずれ量に信頼性があると、前記特定の領域で算出された前記ずれ量に基づいて、前記光学系の位置を制御し、前記特定の領域に複数の被写体像が存在せず、前記特定の領域で算出された前記ずれ量に信頼性がないと、前記特定の領域の周辺の前記領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する撮像装置。
【請求項６】
請求項１から５のいずれか一項に記載の撮像装置において、
前記制御部は、前記特定の領域に複数の被写体像が存在せず、前記特定の領域で算出された前記ずれ量が所定の範囲内であると、前記特定の領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御し、前記特定の領域に複数の被写体像が存在せず、前記特定の領域で算出された前記ずれ量が所定の範囲内でないと、前記特定の領域の周辺の前記領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する撮像装置。
【請求項７】
請求項１から６のいずれか一項に記載の撮像装置において、
前記ずれ量が閾値よりも大きいと、前記特定の領域に複数の被写体像が存在すると判定し、前記ずれ量が閾値よりも小さいと、前記特定の領域に複数の被写体像が存在しないと判定する判定部を備える撮像装置。
【請求項８】
請求項７に記載の撮像装置において、
前記判定部は、前記特定の領域における被写体像の明るさが所定の明るさよりも暗いと、前記特定の領域に複数の被写体像が存在しないと判定し、前記特定の領域における被写体像の明るさが所定の明るさよりも明るいと、前記特定の領域に複数の被写体像が存在すると判定する撮像装置。
【請求項９】
請求項７または８に記載の撮像装置において、
前記判定部は、前記領域から出力された信号を分割した信号に基づいて、前記特定の領域に複数の被写体像が存在するか否かを判定する撮像装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００５】
本発明の第１の態様によると、撮像装置は、複数の領域が設定された撮像面を有し、光学系の異なる瞳領域を通過した光を受光して生成される複数の信号を出力する撮像部と、複数の前記信号のずれ量を前記領域ごとに算出する算出部と、複数の前記領域のうちの特定の領域に複数の被写体像が存在すると、前記特定の領域以外の前記領域で算出された前記ずれ量に基づいて前記光学系の位置を制御する制御部と、を備える。